



# ほむる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!)◆  
 ~あなたの悩み事は当社までご相談下さい~  
 【今月の一冊】アドラー流 たった1分で伝わる言い方  
 戸田久実 著 かんき出版  
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2017年7月1日 Vol. 177  
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション  
 ライフコンサルタント 渡邊敏徳  
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地  
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

## “人口減少”社会

今、“人口減少”という話題をよくニュースでも耳にすることが多いと思います。これまで日本で人口は増え続けてきましたが、“人口減少”の時代へ本格的に突入します。

100年前(1917年)には約5500万人だった日本の総人口は、1960年代後半に1億人を突破。2008年の1億2808万人をピークに減少傾向に転じました。

経営者が今までのような人口増を基点とした考え方に安住していたとしたら、会社経営は立ち行かなくなってしまう。社会が大きく変化していく中で、頭を切り替えることがとても重要になります。日本社会が経験したことのない急激な“人口減少”社会が本格的に到来するのです。

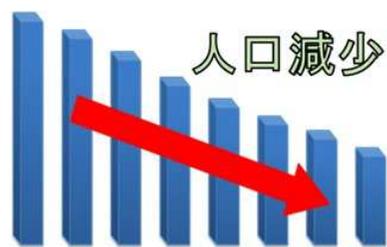
最新の統計調査によると、これから毎年、東京都世田谷区の人口が丸ごと消えていくほどのペースで“人口減少”が進んでいきます。東京都世田谷区の人口は、約89万人です。山梨県の人口が約82万人ですから驚きです。日本の人口は、2065年までに約8808万人、100年後に約5060万人と推定されています。

また、これから「生まれる子」の数も激減します。2016年度に生まれた赤ちゃんの数(出生数)は98万1000人と、統計をとり始めた1899年以降初めて100万人割れとなりました。50年後には半減し、100年後には約32万人に落ち込むことが予想されています。

さらに、これからの日本では“人口減少”とともに高齢化も加速します。2025年には3人に1人が65歳以上という『超高齢化社会』に突入します。

消費が期待できない中、大手自動車メーカーのトヨタ自動車も危機感を抱いています。1990年に日本全体で800万台近くあった新車販売台数が2030年代には400万台に半減するとも言われているからです。

巨大スーパー、巨大百貨店、コンビニ、鉄道会社、建設業、外食チェーン、運送業など、人口



減少時代の企業経営は、戦略と決断を誤れば会社が“即死”に追い込まれる危険があります。

私の携わっている損害保険業界も、“人口減少”という大きな波をどう乗り越えていくのか、難しい舵取りを迫られる時代に突入していきます。周りの動向に注視し、いろんなことを少しずつ準備することがとても重要だと感じます。

## 第三の場所

1996年8月コーヒーショップで有名なスターバックスは、東京・銀座に日本1号店をオープンしてから20年が経ちました。「お客様に愛される“The Only One”なブランドとして成長を続けるために、私たちは一杯のコーヒーを通じて地域のお客様一人ひとりと丁寧に向き合う姿勢を大切にしていきたい」という考え方をもち会社です。

フランチャイズ方式が多い中、スターバックスの店舗は直営です。しかし短期間に店舗網を拡大するにはフランチャイズ方式を採用した方が合理的に見えます。

ポイントは「第三の場所」というスターバックスのコンセプトにあります。仕事に追われる職場と自宅の間に、ちょっとくつろげる場所を消費者に提供するというものです。日本に進出した当初、戸惑った人が多かったのではないのでしょうか。カウンターで注文してもファストフード店のようにはすぐに商品が出てこないからです。

しかし、狙いはそこにあったのです。スターバックスは「わざと」時間をかけていました。時間に追われるお客様が店にいると第三の場所としての雰囲気を壊してしまうので、「急ぎの客」が来ないようにしているのです。そう考えると直営にこだわる理由も理解できます。

フランチャイズ店のオーナーならば、お店の利益を少しでも多くしたいと思うのでお客様の滞在時間を短くすることを考えます。非効率を戦略に組み込んだことにより、他社との差別化が図られ競争の優位性が持続しています。いろんな知恵を働かせてライバルに打ち勝っていききたいものですね。



### 【座右の銘にしたい名言】



成功したビジネスでは、必ず誰かが一度は英断を下している。

(ピーター・ドラッカー/オーストリアの経営学者)